

令和2年1月23日（木）に鳥類及び底生動物等の貴重な生息の場（鳥獣保護区）となっている七北田川河口の蒲生干潟において、宮城県環境アドバイザーによる現地検討会を開催しました。

冬期に七北田川河口部へ飛来するコクガンへの現場における配慮事項及び干潟の水交換について報告・説明を行い、環境アドバイザーから指導・助言をいただきました。

検討会の様子



アドバイザーからの主な意見

- 天然記念物のコクガンへの配慮について
・引き続き3月まで配慮してもらいたい。
- 干潟内外の水交換について
・左岸側導流堤の脇に滞筋が確保されているため、干潟の水交換が良くなっている。継続して状況を確認すること。

○コクガンへの配慮（11月～3月）

コクガンは早朝に飛来し、川で水を飲んだり、寄州に上陸して羽繕いや休憩した後には飛び立つことから、早朝は人影や騒音などで驚かせないように配慮する。



蒲生干潟全景（令和2年1月7日撮影）



コクガン（カモ目カモ科）天然記念物

コクガンの生息地要因として採食地の他に、淡水の飲水場や上陸しての休憩地がある。近年、砂浜に車両ごと立ち入って遊ぶ人が増えており、コクガンが必要とする安全な休息地を脅かす存在となっている。カルガモと同じぐらいの大きさ（約60cm）で、全体的に色が黒く、首に白い輪があるのが特徴。

※アドバイザーよりいただいた意見（指導・助言）を踏まえ、引き続き環境に配慮して施工していきます。